

## 2019 年度秋学期研究者交流支援制度 (MU-RMG-2019-27) 実施報告書

**招聘責任者：総合数理学部 専任教授 小松孝徳**

### 招聘者

氏名：Prof. Bertram, F. Malle

所属：Brown University, US

期間：2019 年 12 月 6 日から 12 月 12 日

### 特別講義

演題：Perceived Mind and Morality of Machines

日時：2019 年 12 月 9 日（月）15:20～16:50

場所：中野キャンパス高層棟 301 教室

聴講者：25 名

### 実施報告

米国ブラウン大学認知行動言語学部の Prof. Bertram, F. Malle を本支援制度により招聘した。Malle 教授の専門は、心理学、言語学、哲学であるが、近年はこれらの知識を総動員して人間と人工物との関係性を考察する研究活動に従事し、世界的にも高く評価されている。招聘責任者と Malle 教授は 2016 年に開催された国際会議で出会い、それ以降、お互いの所属を訪問しあいながら、人間がロボットに対してどのような道徳的規範を求めているのかについての共同研究を継続的に実施している。今回の招聘期間はわずか 7 日間と短いものであったが、研究の進捗状況の報告、今後の研究計画などのテーマについて、時差を気にすることなくしっかりと膝を突き合わせて議論することができた。

12 月 9 日（月）に行った特別講演は、「Perceived Mind and Morality of Machines」というタイトルにて実施し、聴講者は約 25 名であった。講義の前半では、ロボットの外見は人間とロボットとの関係性を大きく決定する要因であるにも関わらず、客観的な扱いがされていないという現状に着目して、ロボットの外見を三次元ベクトルとして客観的に表現する Malle 教授の研究成果が報告された。また講義の後半においては、トロッコ問題に代表されるモラルジレンマ課題にロボットを登場させ、そのロボットに人間がどのような行動を期待しているのかを把握することで、ロボットに求める道徳的規範を抽出する方法についての実験手法について報告された。加えて、Malle 教授と招聘研究者の共同研究についても紹介がされた。心理学、言語学、哲学という一見するとロボットに関連しない学術分野であっても、人間との関係を解析する強力なツールとなり得ること、また、実際の国際共同研究の進め方などの情報は、参加者の大半を占めていた学生に対して大きなインパクトを与えていたようだった。



講演中の Malle 教授

これらの学内のアクティビティ以外にも、招聘責任者の自宅に Malle 教授を招待するなど、研究活動以外でも多くの時間を過ごすことができた。よって、この研究交流支援制度によって、Malle 教授と招聘責任者の共同研究をより円滑かつ迅速に進めることができる基盤が整ったと考えている。

以上